

# 第4回TRIZシンポジウム

(TRIZ Symposium 2008 in Japan)

-TRIZの新しい展開を目指して-

(2008年9月10日～9月12日、於：ラフォーレ琵琶湖)

## 開会にあたって

2008年9月10日

NPO法人日本TRIZ協会

理事長 林 利弘

所在地：〒105-0013 東京都港区浜松町2-1-3 第二森ビル4階  
TEL：03-5647-8982 FAX：03-5777-8818  
E-mail：[info@triz-japan.org](mailto:info@triz-japan.org) URL：<http://www.triz-japan.org/>

# TRIZシンポジウムの発展

回次	主催	開催時期	開催場所	参加者	発表件数
第1回	日本TRIZ協議会	2005年 9月1日～3日	伊豆・ ラフォーレ修善寺	104名	20
第2回	日本TRIZ協議会	2006年 8月31日～ 9月2日	大阪吹田・ パナヒルズ大阪	157名	34
第3回	日本TRIZ協議会	2007年 8月30日～ 9月1日	新横浜・ 東芝研修センター	204名	34
第4回	日本TRIZ協会	2008年 9月10日～ 12日	滋賀・守山・ ラフォーレ琵琶湖	167 名	46

## 第4回TRIZシンポジウムの方針と狙い

- 1) 発表および参加を広く (国内・海外から) 公募し、公開の会とする。
- 2) TRIZのより深く広い理解を作るとともに、企業や大学などにおける実践を推進する。
- 3) 基本的には国内向け(全国的)であるが、部分的に (できるだけ多く) 国際的なものにする。
- 4) 今回の主題：  
TRIZの新しい展開を目指して

# 今回（第4回）シンポジウムの特徴

- 1) NPO法人日本TRIZ協会の最初のシンポジウム。
- 2) 基調講演2件、特別講演1件を招待。  
また初心者及び経験者向けの2件のプレセッションの実施。
- 3) 発表件数は46件（招待講演3件含む）と前回の34件（招待講演5件含む）を大きく上回った。
- 4) 講演形式（パラレルセッション）とポスター形式の2つのタイプの発表形式採用による広いそして深い交流の場の提供。
- 5) 海外からの発表も7カ国（米、マレーシア、韓国、台湾、英、イスラエル、オーストリア）14件（招待講演含む）となり、国際性も認識されてきた。
- 6) 発表者層の拡大：大企業～中小企業、企業中心～研究グループ発表、大学と学校（家庭）教育で発表。中学生の発表も。
- 7) スライドの和英同時投影、討論の通訳、報告集の和・英2言語出版。  
このための準備・運営（翻訳、通訳）に対しての、会員諸兄のボランティア協力の実現。

## 第4回TRIZシンポジウム招待講演

**基調講演 1** : *Can TRIZ work for a Large, Innovative Semiconductor Company? Intel's Learning*  
-Mr. Amir Roggel (Intel, Israel) -

**基調講演 2** : *Directions for Future TRIZ Development and Applications*  
-Dr. Eng, PhD, PE, professor, TRIZ Master Sergei Ikoenko  
(GEN3 Partners / MIT, U.S.A) -

**特別講演** : 松下電器本社R&D部門におけるTRIZ活動  
-システム・方式・ソフトウェア技術への適用-  
福嶋 洋次郎氏  
(松下電器産業(株) システムエンジニアリングセンター)

# 第1-4回TRIZシンポジウム発表者・参加者内訳推移

2008年8月28日現在

			2005 (1)	2006 (2)	2007 (3)	2008 (今回)
論文発表者	国内	大学/研究機関	1	6	3	4
		一般企業	9	10	10	10
		個人/研究会ほか	2	2	6	↑ 10
		サービス提供者	5	5	5	↑ 8
	海外	3	11	10	↑ 14	
	計	20	34	34	↑ 46	
チュートリアル他				2	2	
参加者 (講演者含む、 事前申込み ベース)	企業ユーザー (開発関係)		71	94	142	↓ 97
	教育・研究機関・コンサル		9	43	42	40
	ツールベンダー		15	2	1	7
	その他 (知財、IT, 個人ほか)		9	8	10	↑ 23
	計		104	147	195	↓ 167
シンポジウム終了時点の参加者				157	204	

# 主催者：NPO法人日本TRIZ協会について

昨年迄：少数のボランティアベースの任意法人活動

2004年5月：TRIZ懇話会発足

2005年1月：日本TRIZ協議会へ衣替え

(3回のTRIZシンポジウムを毎年開催)

本年以降：会員ベースの公共的なNPO法人活動

(ボランティア活動であることは変わらず)

—東京都庁より認証を受け、

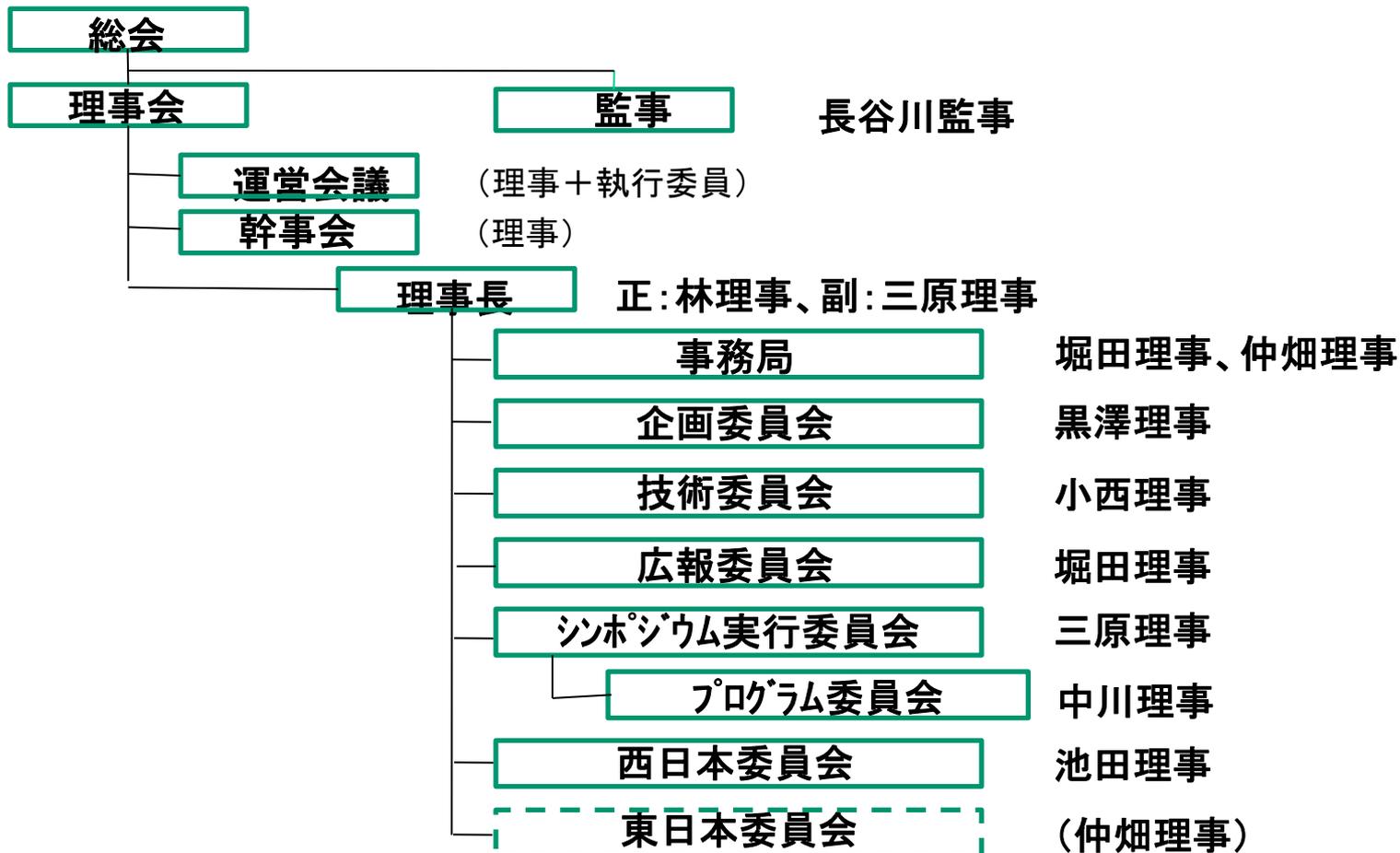
2007年12月27日に正式発足—

- 日本におけるTRIZの普及活動のセンターとして機能する。
- 我が国の技術開発力・国際競争力の強化に資するため、活動をよりオープンで全国的なものにする。
- TRIZに関心を持っている方々のより強固な結集と活動の場を継続的に提供する。

# NPO法人日本TRIZ協会の現況と運営組織

1. 会員数：正会員： 118名（H19年度）、135名十（H20年度）  
 賛助会員： なし（H19年度）、 2社十（H20年度）

2. 運営組織：（2008年6月30日現在）



# NPO法人日本TRIZ協会各委員会・事務局の分掌

- 企画委員会：協会事業の企画立案
- 技術委員会：技術面での協会としてのオーソライズ、研究会統括
- 広報委員会：対外、対会員広報（HP運営含む）
- シンポジウム実行委員会：シンポジウムの企画・運営
- プログラム委員会：シンポジウムプログラムの発表公募とプログラム編成
- 西日本委員会：愛知県以西の活動推進
- 東日本委員会：静岡県以東の活動推進（当面休止）
- 事務局：各種協会事業の実施運営

# NPO法人としての活動内容

(NPO法人日本TRIZ協会HPより)

## 1. TRIZシンポジウムの企画開催

- ・国内中心で海外からの参加もよびかける。1回／年開催。  
「日本TRIZ協会」会員の参加費優待を行う。

## 2. 研究会活動

- ・TRIZの適用方法、事例研究など、TRIZを様々な分野/場面で活用するための研究とガイダンスの構築を目指し、TRIZの普及・発展に供する。  
「日本TRIZ協会」会員は参加できる。

## 3. セミナーの企画開催

- ・関係協力機関との共催または後援／協賛によるセミナー開催を行う。  
この場合「日本TRIZ協会」会員優待を行うようにする。

## 4. 教育／出版用コンテンツの開発

- ・教育・普及のためのコンテンツを開発し、書籍出版、  
eラーニング、講習会などで活用する。
- ・既存文献（特に、英語の）、上記研究会の成果、関係協力機関の  
コンテンツ、などの活用を図る。

# NPO法人化によって可能となったこと

## ■運営基盤面：

- ・ 会員制組織によるシンポジウム、委員会運営への  
会員参画基盤整備
- ・ 会費による経常的費用の確保  
(事務所確保、HP運営や運営会議経費)
- ・ 法人としての活動のための資産継承

## ■シンポジウム運営面：

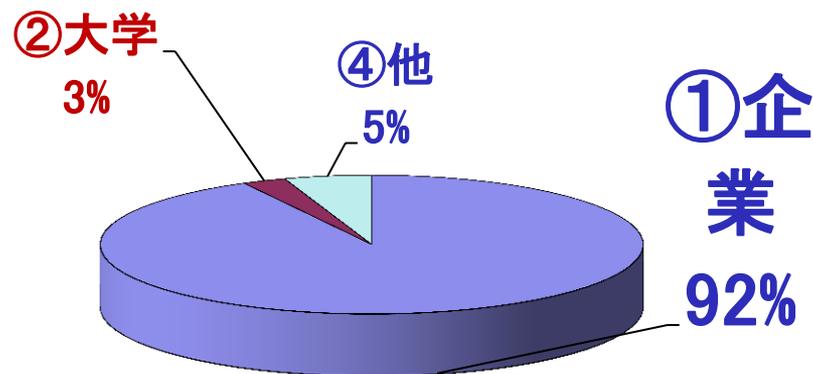
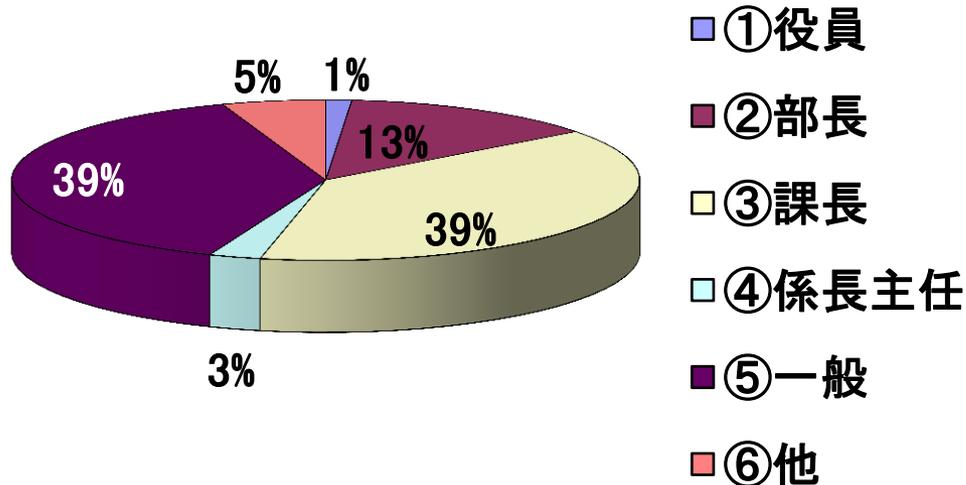
- ・ 通訳・資料和英訳への会員ボランティア参画の実現
- ・ 海外参加者へのクレジットカード処理

## ■今後の期待

- ・ 委員会・研究会やHP運営への一般会員からの参画
- ・ 正会員・法人会員の拡大

# 2007年参加者アンケート 分析結果一部紹介 (残りは付録参照下さい)

# 第3回TRIZシンポジウムアンケートより (参加者の立場)

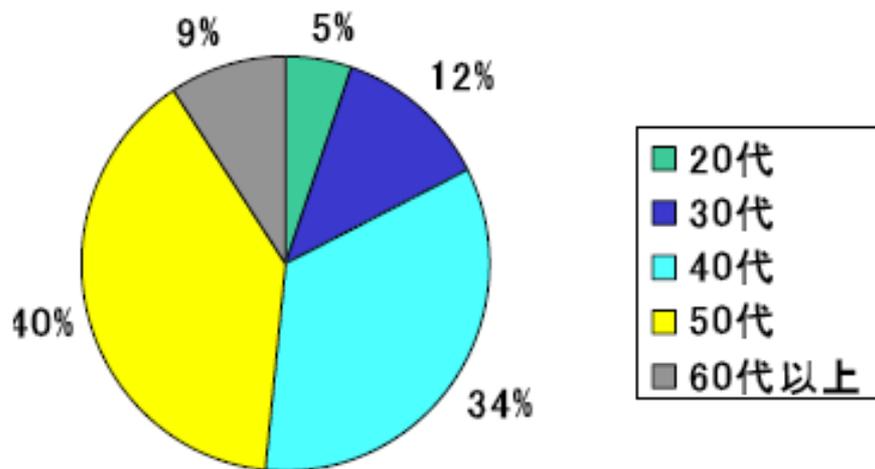


あなたの組織での立場は？  
→ 課長、部長クラスが半数

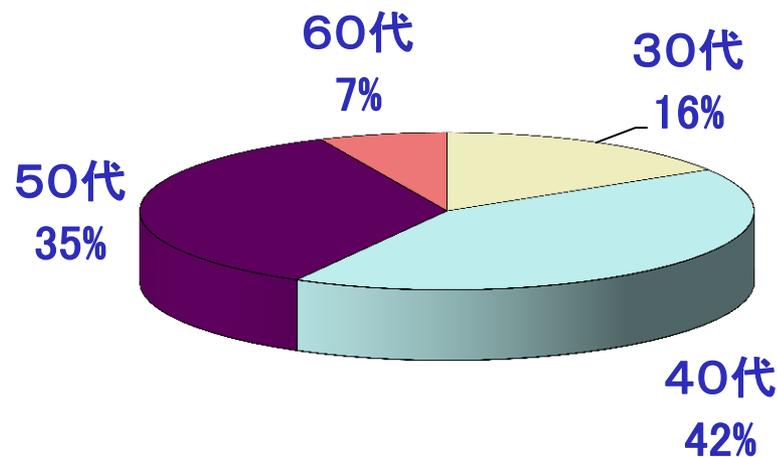
どういう組織ですか？  
→ 92%が企業から

# 第2 / 3回TRIZシンポジウムアンケートより (年齢分布)

第2回



第3回

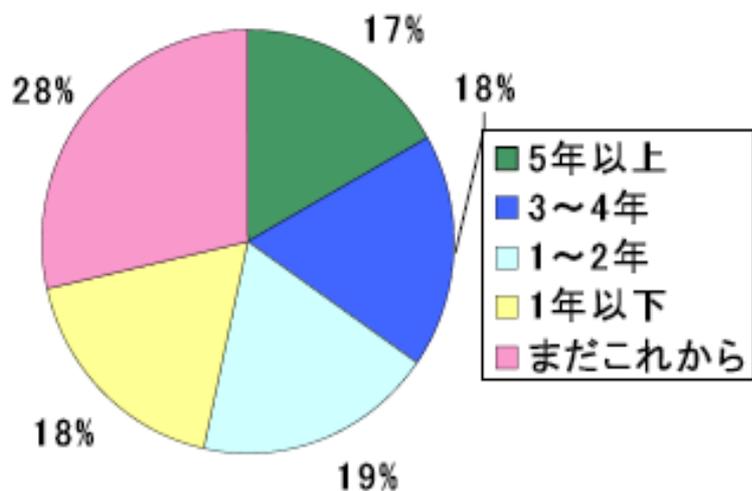


若い世代の参加を期待！

40代の増加  
( 34% (第2回)  
→ 42% (第3回) )

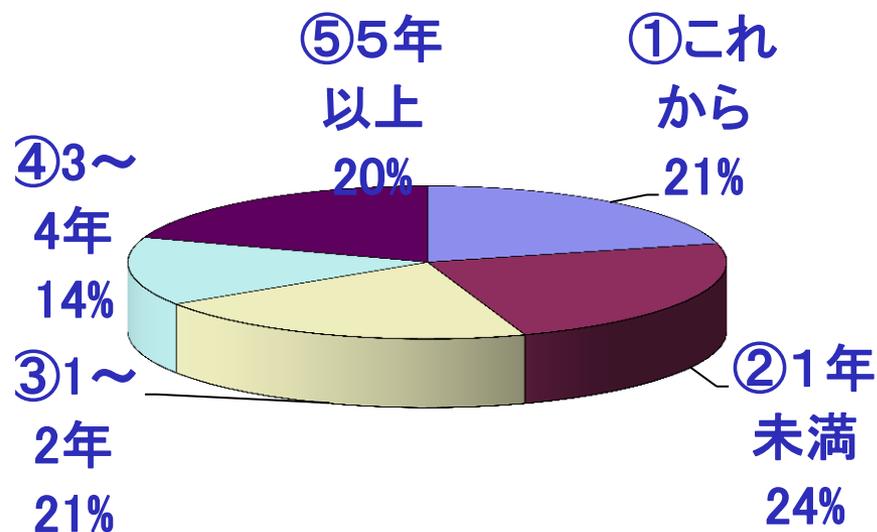
# 第2 / 3回TRIZシンポジウムアンケートより (TRIZ活用経験)

第2回



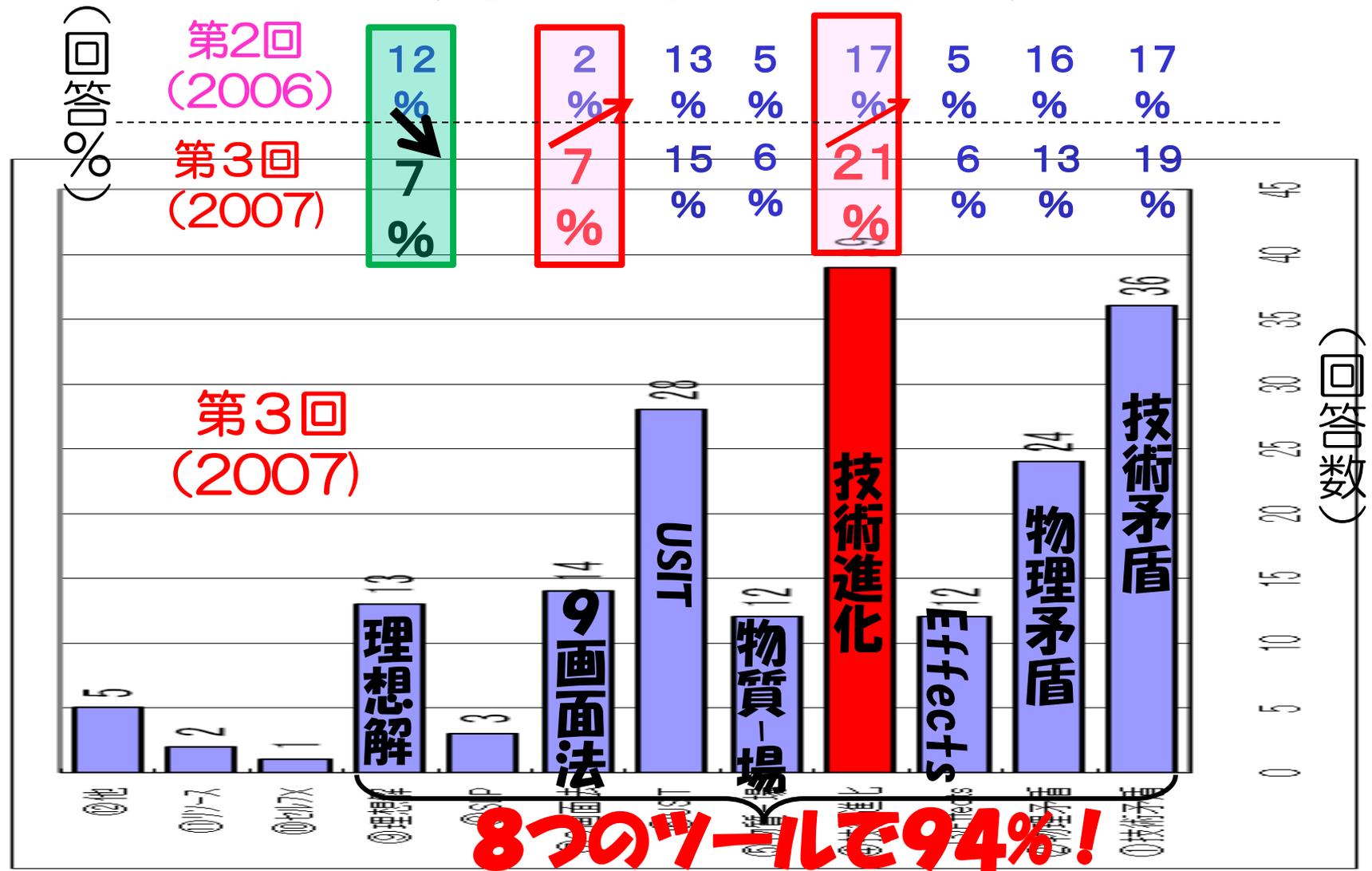
2年以下が65%!

第3回



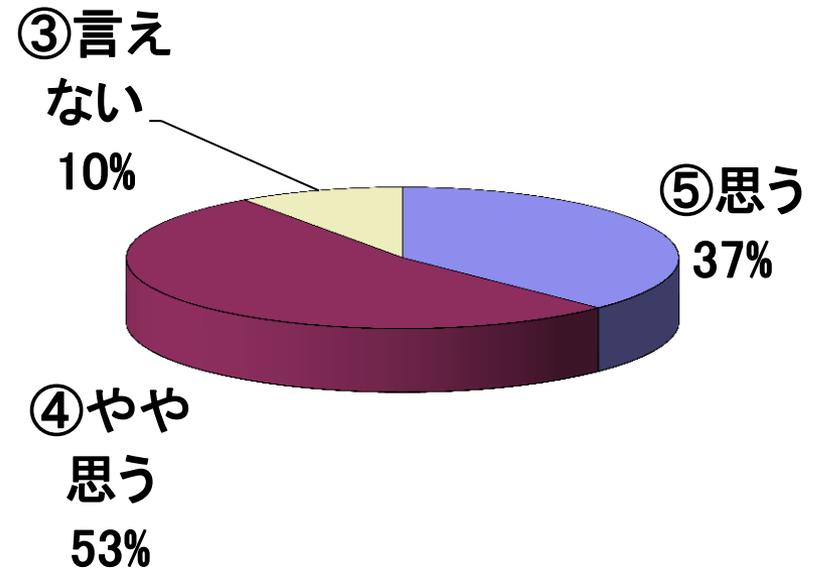
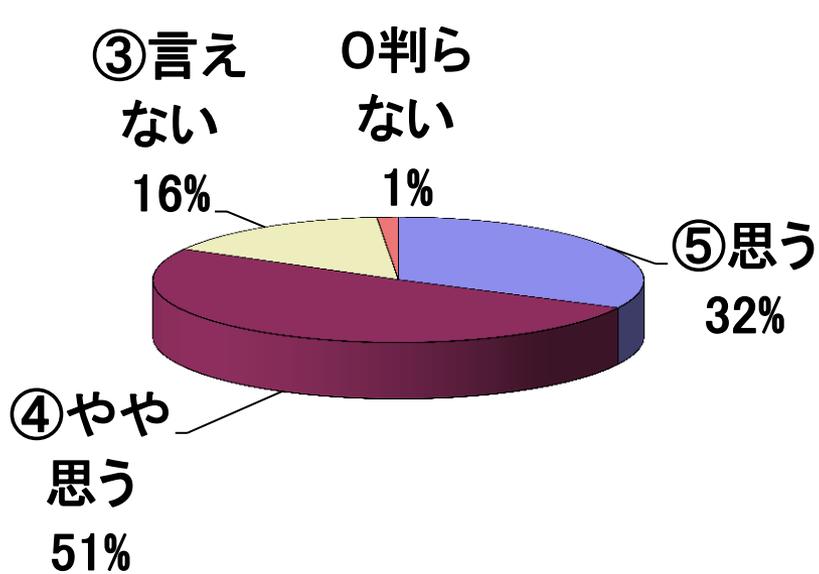
2年以下が66%!  
(前年と変わらず)

# 第3回TRIZシンポジウムアンケートより (関心の高いTRIZ技法)



**8つのツールで94%!**

# 第3回TRIZシンポジウムアンケートより (シンポジウムの有効性)



社内などに推進・展開する  
上で、役に立ちそうか?  
→83%の人が有効

シンポジウムの内容に満足か?  
→90%の人が満足

# 第4回シンポジウム準備組織および協力者(1)

全体統括 : 林 利弘

準備組織 (シンポジウム実行委員会)

実行委員会委員長 : 三原祐治

実行委員 (事務局) : 堀田 政利、市川 諒子 (日本TRIZ協会)

会場組織委員 : 水野 栄一

プログラム委員長 : (正) 中川 徹、(副) 小西 慶久

プログラム委員 (兼ポスターセッション担当) : 池田 和康

プログラム委員 : 岡 建樹

開催準備協力者 : 黒澤慎輔、仲畑光蔵、正木敏明、  
片岡敏光、長谷川公彦、海野誠、  
前古 護、奥住直明、福嶋洋次郎、  
大田哲也

デザイン協力 : 後藤一雄 (リコー)

【敬称略、順不同】 【所属記載なしは日本TRIZ協会の運営会議メンバー】

# 第4回シンポジウム準備組織および協力者(2)

## 通訳・スライド翻訳協力者

通訳者：小西慶久、黒澤慎輔、  
石濱正男 (神奈川工大)、鹿倉 潔 (IM ジャパン)、  
望月 朗 (日産自動車)、

和訳：小西慶久、黒澤慎輔、福嶋洋次郎、  
海野誠、仲畑光造、堀田 政利  
正木敏明、中川徹、池田和康、  
横山和正 (東芝)、森久光雄 (創造開発イニシアチブ)、

英訳：中川徹、小西慶久、  
重田淳二 (日立中研)、庄内亨 (日立中研)、  
鈴木博之 (日立中研)、津波古和司 (日立GST)

【敬称略、順不同】 【所属記載なしは日本TRIZ協会の運営会議メンバー】

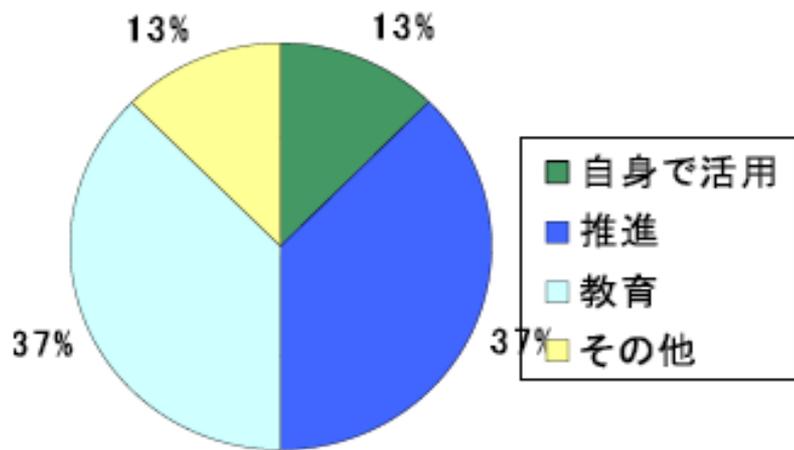
# ご清聴ありがとうございました

「日本TRIZ協会」未加入の方の  
加入と継続、よろしくお願い致します

# 2007年参加者アンケート 分析結果その他紹介 (付録)

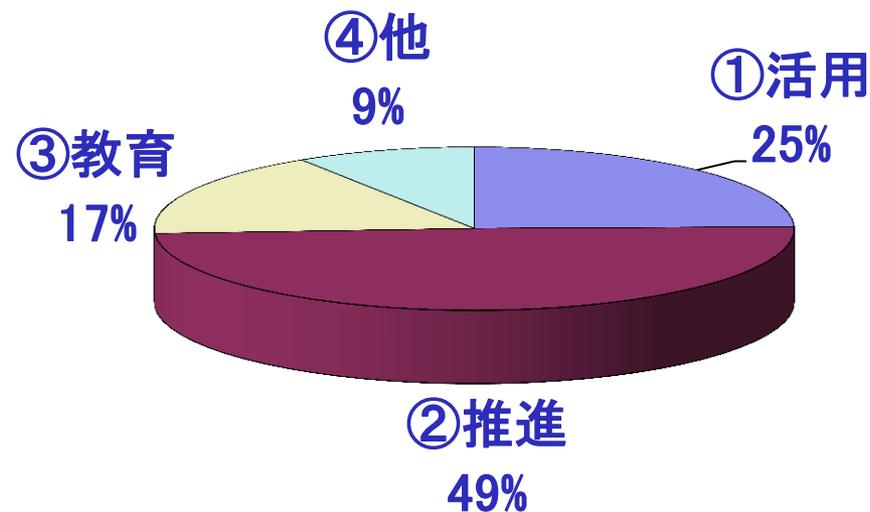
# 第2 / 3回TRIZシンポジウムアンケートより (TRIZへの関わり方)

第2回



- 教育・推進関係者が75%!
- 自身で活用が13%

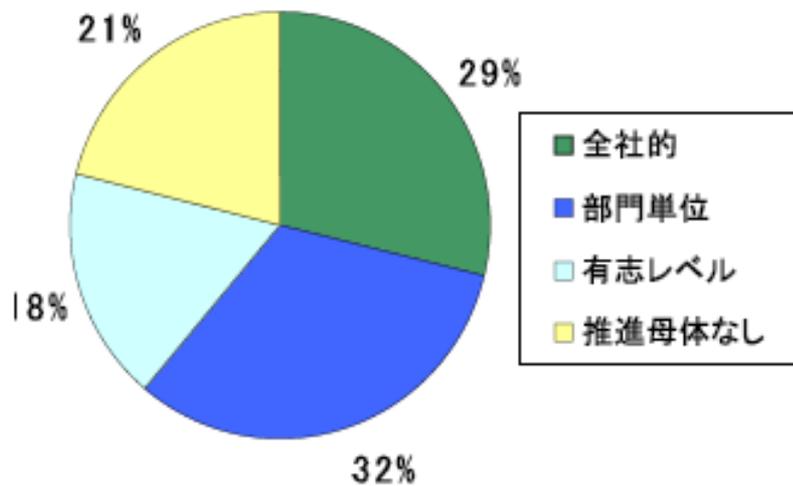
第3回



- 教育・推進関係者が66%!
- 自身で活用が25%

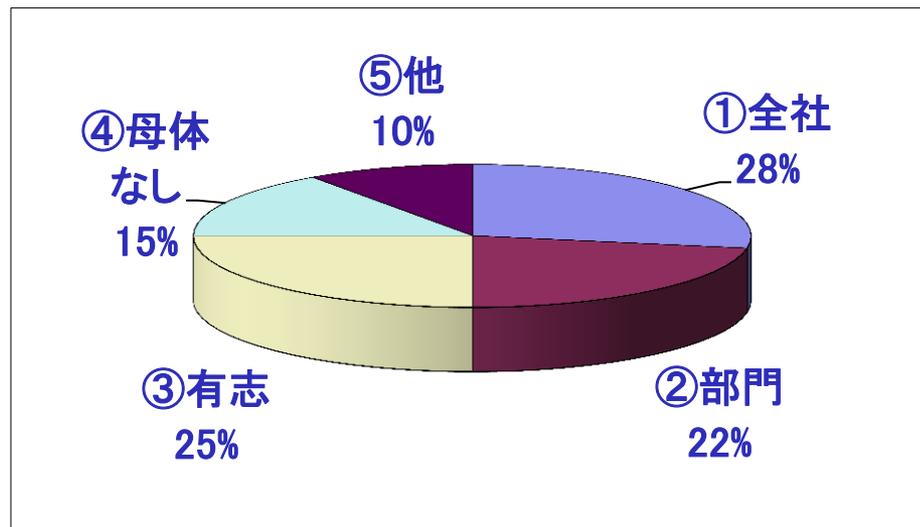
# 第2 / 3回TRIZシンポジウムアンケートより (TRIZ推進方法)

第2回



組織的推進は  
約60%!

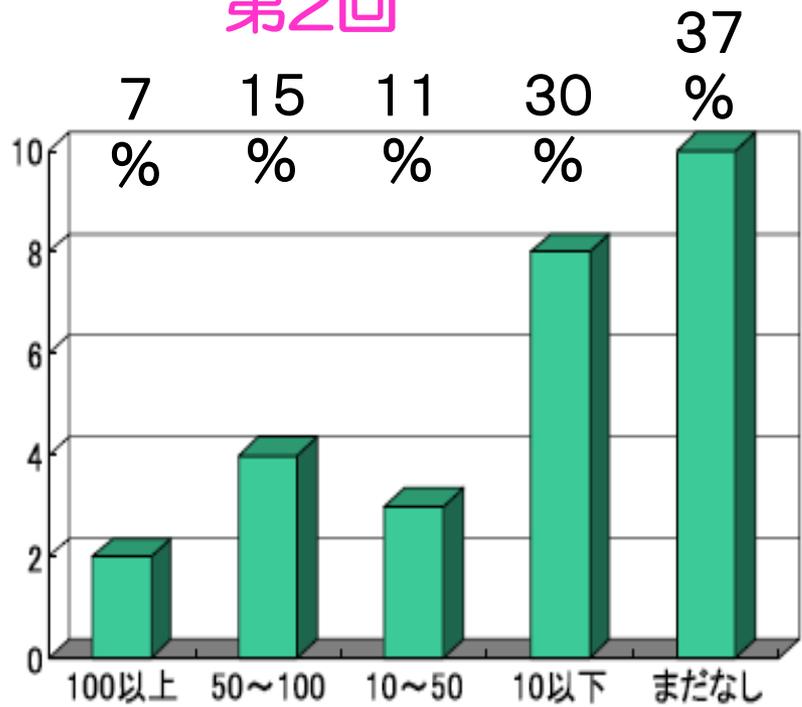
第3回



組織的推進は  
約50%!  
(個人としての関心者の増加)

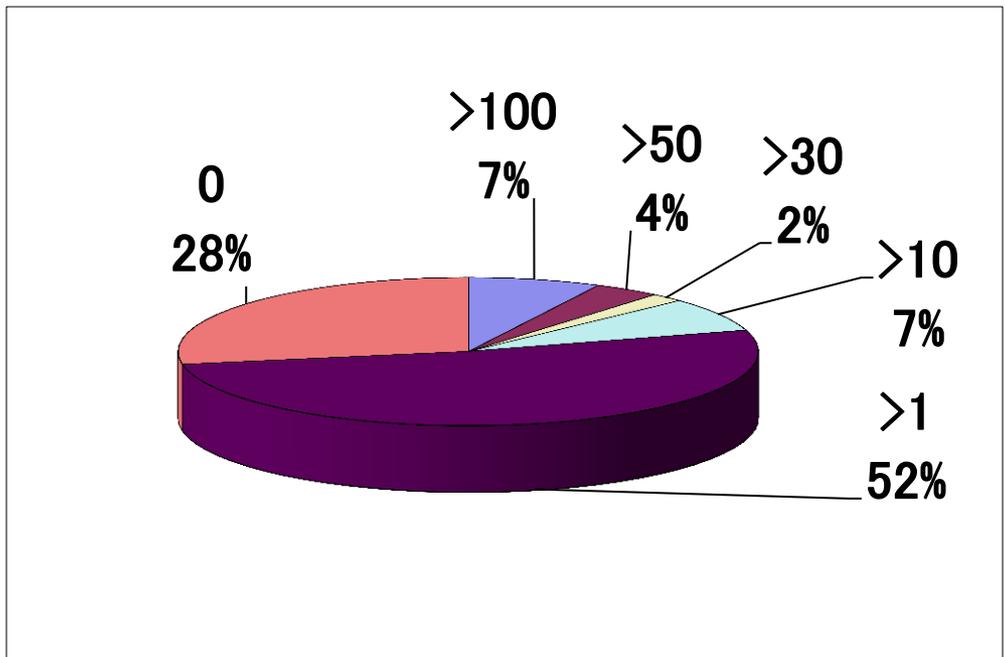
# 第2/3回TRIZシンポジウムアンケートより (TRIZの適用件数)

第2回



10件以下が67%

第3回



10件以下が80%  
(未組織化推進組織の増加のため?)